

創立50周年記念誌



一般社団法人 静岡県私立幼稚園振興協会

一般社団法人 静岡県私立幼稚園振興協会・創立 50 周年記念誌

1970 — 2020

CONTENTS [目次]

挨拶

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会 理事長 千葉 一道	1
------------------------------------	---

祝 辞

静岡県知事 川勝 平太	2
静岡県議会議員 山田 誠	3
全日本私立幼稚園連合会 会長 香川 敬	4
一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会 元理事長 宮下 ちづ子	5
一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会 前理事長 相田 芳久	6

特別座談会 「歴代理事長が語る協会 50 年の歩み」	8
----------------------------------	---

特別寄稿 副理事長等経験者による特別寄稿「県私幼 50 周年を迎えて」…	14
--------------------------------------	----

特別座談会 「若手職員が語る、これからの幼児教育について」	16
-------------------------------------	----

各園の紹介	24
-------------	----

東 部	25
中 部	51
西 部	93

県私幼の歩み	121
--------------	-----

資 料	158
-----------	-----

振興協会三役等歴代名簿	
振興協会常置委員長歴代名簿	
振興協会園児数、加入園数等の推移	
振興協会創立 50 周年記念事業特別委員会	

幼稚園教育の 更なる拡充と 発展を願う



一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会

理事長 千葉 一道

50年前を顧みれば、大阪で日本万国博覧会が開催され「人類の進歩と調和」をテーマに世界各国から6421万人が来場し、まさに新時代の幕開けを象徴しました。

当協会は、昭和45年11月社団法人静岡県学校法人幼稚園教育振興会と、静岡県私立幼稚園協会を一本化し「社団法人静岡県私立幼稚園振興協会」を設立し幼稚園教育の振興に寄与してまいりました。設立当初の会員園240園は今日、234園を維持し県内の幼児教育を担っております。

平成23年には国の法制度改革に伴い、「公益法人制度改革に伴う移行手続き検討委員会」を立ち上げ、今までの社団法人及び財団法人を解体し、県内における私立幼稚園教育の充実及び振興並びに地域の子育てを支援するための事業を行い、もって幼児の健全な育成を図ることを目的として、平成25年度から一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会と公益財団法人静岡県退職基金財団として運営変更しました。

平成27年度には国による「子ども子育て支援新制度」により新しい制度がはじまり、当協会からも幼保連携型認定こども園へ移行する園が誕生しました。幼稚園教育になかった3歳未満児の受入により、教育と保育両面の必要性を求める保護者が急増し、協会園の4割ほどが移行して乳幼児教育の重要性が叫ばれるようになりました。

顧みれば50年の歴史において、教職員の研修、経営指導や私立幼稚園の振興対策など様々な事業に多大なご貢献をされました諸先生方に、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

令和元年10月からは、「幼児教育・保育の無償化」が実現し、3歳から就学までのすべての子どもの保育料が無償化され、子育てしやすい環境が整ってまいりました。

人生100年時代が到来し、益々長寿社会になってまいります。豊かな心の子育ては「よい家庭環境」が必要です。今後更に預かり保育や延長保育の利用者が増加してまいります。幼稚園と家庭が相協力して、健やかに成長できる子育て支援を提供して行くことが大切です。

今年度は、想定外の新型コロナ禍により全ての行事が変更されました。私たちを取り巻く環境は未曾有の事態に遭遇することがあります。私立幼稚園がいつまでも地域の役割を担うことができるよう県内各市町と連携し、充実した幼稚園教育の拡充により創立100年を目指して歩んでまいります。今後とも皆様の一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに記念誌を「遊」と題しました。「子どもの仕事は遊びである」と言われるように、子どもの発達に重要な意味を持っています。遊びを通して社会のルールを養ってほしいと希望します。

創立 50 周年を 祝って



静岡県知事 川勝 平太

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会が創立 50 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和 45 年の創立以来、各種の教職員研修や子育て支援事業など、幼児教育の振興に係る様々な事業に取り組まれ、本県私立幼稚園の発展に多大なる御貢献をいただいておりますことに深く敬意を表します。

現在、県内の 5 万人余もの園児が、幼稚園や認定こども園など、それぞれの特色を生かした教育や子育て支援を行う私立幼稚園に通っておりますが、我が国の東京一極集中の加速化や未婚化、晩婚化の進行などによる少子化傾向は、本県も例外ではありません。

また、共働き世帯の増加による保護者のニーズの多様化など、幼児教育を巡る環境は刻々と変化しております。

こうした中であって、建学の精神に沿ったそれぞれの教育方針に基づき、私学ならではの特色ある教育や、預かり保育、子育てに関する相談などを実践され、保護者のニーズにきめ細かく応えていただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

本県では、「富国徳の『美しい“ふじのくに”』づくり」を県政運営の基本理念に掲げ、高い志を持って社会に貢献できる自立した「有徳の人」の育成に向けて、地域ぐるみ、社会総がかりでの子育てや教育を推進しております。

特に幼児教育は、普段の遊びや生活の中で、知識、技能、思考力、判断力、表現力等、生涯にわたる人格形成の基礎を培い、その後の子供たちの学びと資質・能力の向上に大きく寄与するものでありますことから、私立幼稚園の果たす役割は大変重要であると認識しております。

本県の宝であり、県民に希望をもたらす子供たちが健やかに成長できるよう、引き続き、私立幼稚園教育の振興施策を積極的に推進してまいります。

貴協会におかれましても、私立幼稚園の振興と、本県の進める「有徳の人」づくりに、なお一層の御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、静岡県私立幼稚園振興協会並びに各私立幼稚園のますますの御発展と、関係の皆様の一層の御活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

私立幼稚園振興協会 創立50周年によせて



静岡県議会議長 山田 誠

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会が創立 50 周年を迎えるにあたり、県議会を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和 45 年の創立以来、私立幼稚園教育の振興に御尽力され、本県の幼児教育の発展に多大な貢献をしておられますことに、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、近年の少子化の影響により、幼稚園に通う園児数が年々減少していることに加え、共働き世帯の増加などにより保護者のニーズが多様化しており、こうした状況に对应していくため、これまで以上に質の高い幼児教育を展開していくことが必要です。

また、近年、子どもが被害に遭う事件、事故が相次いで発生しているほか、台風などの大規模災害や、本県において深刻な被害が想定されている南海トラフ地震の発生も懸念されており、こうしたことから園児を守るための安全確保対策も喫緊の課題となっております。

こうした中で、県内 230 余の私立幼稚園が加入されている貴協会におかれましては、幼児教育の質の向上のための調査・研究事業や幼稚園教員の資質向上のための各種研修事業などを通じて、幼児教育の充実、発展に寄与されているほか、各私立幼稚園において地域防災との連携や、防犯・防災研修の開催など、子どもの安全確保対策に積極的に取り組まれており、大変心強く感じるところであります。

あらためて申し上げるまでもなく、幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培い、その後の子どもたちの学びと資質・能力の向上に寄与するものであり、その充実を図ることは極めて重要であります。

県議会といたしましても、私学ならではの特色ある教育の実践を通じて、子どもたちが豊かな心を持ち、健やかに成長できるよう、私立幼稚園の振興にできる限りの支援をしてまいりますので、貴協会におかれましても、私立幼稚園の振興と充実のため、なお一層御尽力くださいますよう、お願い申し上げます。

結びに、静岡県私立幼稚園振興協会並びに各私立幼稚園のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

創立 50 周年を 祝して



全日本私立幼稚園連合会
会長 香川 敬

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会が創立 50 周年を迎えられ、静岡県における幼児教育の発展向上に寄与してこられたその輝かしい軌跡を綴る記念誌が発行されますことに対して、心からお祝いを申し上げます。

顧みますと、昭和 20 年 9 月、文部省の「新日本建設ノ教育方針」に始まり、新教育制度の基礎となる重要な法律が相次いで制定・実施されました。昭和 22 年 3 月には、「学校教育法」が、昭和 24 年には、私立学校の特性に鑑み、私立学校の健全な発展を図ることを目的として「私立学校法」が公布されました。こうした歴史的な背景に鑑み、昭和 45 年 11 月に貴協会が発足されたことは誠に意義深いものと拝察いたします。爾来、県内私立幼稚園の振興と教職員の資質向上に向けて懸命の努力を積み重ねてこられた、歴代理事長及び関係者各位に深甚なる敬意を表する次第です。

さて、全日本私立幼稚園連合会が長い間標榜してきた幼児教育の無償化が昨年の 10 月より実施となりました。今回の無償化は、少子化対策であると同時に、人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性に鑑み、実施されるものです。これにより巨額の公金が投じられることとなりますので、今まで以上に「教育の質やガバナンスの向上」等が求められ、その「見える化」は避けて通れないと考えます。

もとより、貴協会においては歴史と伝統を大切にされながら、建学の精神や教育理念に基づき、「子どもの最善の利益」を目指した取組みに努めてこられました。今後更に高い志をもって幼児教育の振興に努めていかれることを念願しています。

本記念誌を通して貴協会の歩みを総合的に振り返り、先人の偉業を偲ばれるとともに、その優れた教育精神等々を将来への指針とされ今後益々充実・発展されますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

継続と挑戦



一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会

元理事長 宮下 ちづ子

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会創立 50 周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

目まぐるしく移り変わっていった半世紀のなかで、静岡県私立幼稚園振興協会が県内の私立幼稚園を束ねる組織団体として発展してきたことは、理事長先生はじめ会員の皆様の熱意と協力があったからこそと嬉しく思います。この 50 年を顧みたとき、協会発足当時の諸先輩方が、協会設立という大きな目標に向かって情熱を傾け、多くの犠牲を払いながらいくつもの困難を乗り越えてくださったことに対して、私は心から敬服し、この協会がさらに充実発展することを願ってやみません。またその当時、私立幼稚園の存在意義や重要性を深く理解し、協力してくださった関係者の皆様に感謝の言葉を捧げます。

今、静岡県私立幼稚園振興協会では、多くの事業を行い、その成果として県内の私立幼稚園や教職員、子どもたちに大きな恩恵を与えています。これらの事業は、長い年月の中で受け継がれ、醸成してきたものであります。言い換えれば、それは本協会の文化であり財産であるとも言えます。この協会は私たちの協会です。はじめは小さなことでも、皆が夢を語り、心を傾けて大事に育てた結果、すばらしい事業になることも多々あります。この精神を忘れずに、協会の会員として自ら協力し、協会が豊かで信頼される場となるよう、熱意をもって新たなことに挑戦してほしいと思います。

今、幼児教育施設は、私学助成の幼稚園、施設型給付の幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園に分かれています。しかし、このように形態は異なっても、私立幼稚園であることに変わりはありません。私立幼稚園はこれまでもずっと、子どもの健やかな成長を支えるには何が大切であるかを探究し、子どもの心に寄り添う教育をし続けてきました。それは、時代や教育制度が変わろうとも、けっして変えてはいけないものであると思います。いつまでも私立幼稚園が子どもたちにとって『花園』であることを願っています。

結びに、静岡県私立幼稚園振興協会ならびに各園の益々の充実とご発展を祈念申し上げます。

協会創立 50 周年を祝う



一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会

前理事長 相田 芳久

振興協会との縁も 40 年近くになりました。23 才で現場に入り、まだ数年の頃に新しく刊行される県内私立幼稚園教員のための研修手引「いのち育む」の執筆委員として及ばずながら仕事をさせていただいて以来、歴代の理事長、松永雄道先生、大貫英一先生、そして宮下ちづ子先生からさまざまな勉強、研修の機会を与えていただきました。各委員会委員、委員長、地区大会運営委員、大会分科会部内助言者、そして全日本私立幼稚園連合会への出向等々…。これらが私自身の血肉となり、私学人としての礎となったことは間違いありません。この間、本当に大勢の大先輩から可愛がっていただき、多くの薫陶を得てまいりました。そのご恩返しに…と臨んだ協会の副理事長職 4 年、そして理事長職 8 年…、今思い返せば自分自身の力不足を痛感させられることばかりでしたが、それらは生涯忘れられない貴重な日々となり、さらにたくさんのご縁や刺激をいただいた思いがいたします。

有能な役員各位、そして委員会委員の先生方、事務局の皆さんのサポートを受け、多忙な中にも充実した日々を送り、また全日私幼連や東海北陸地区会の先生方との出会いも私の心を豊かなものにしてくれました。みんな、幼稚園が大好きだ！そして根っからの私学人なんだ！と嬉しくて、夢中で仕事に取り組んでいたような気がします。理事長職在任中は免許状更新講習や学校評価、法人制度改革による振興協会の一般社団化、政権交代による逆風と事業仕分け、大震災、こども園構想から子ども・子育て支援新システムへの対応、海外研修制度の復活、子どもがまんなかプロジェクト等々…、多くの難題と向き合う日々でしたが、時々担当の先生方と一緒にあってそれらに挑んだ日々が懐かしく思い出されます。

ここにきて、協会加盟園も認定こども園、施設型給付幼稚園、私学助成園が混在し、それぞれの研修、経営ニーズにも大きな変化が生じてきました。

〴〵これからの 10 年が踏ん張り処だ！我々の時代はもう終わりに近いが、働き盛りの有能な先生方がたくさんいるこの協会は時代にマッチした変化を遂げていくことができる。きっとできる！またそうでなければならない、と心を奮い立たせる日々。

協会の今後さらなる発展をお祈り申し上げます。

特別座談会・特別寄稿

静岡県私立幼稚園振興協会創立50周年記念誌企画

「歴代理事長が語る協会50年の歩み」

静岡県私立幼稚園振興協会（県私幼）は50年前の設立以来、幼児教育を取り巻くさまざまな環境変化のもとで各地域の私立幼稚園の健全経営のため、県を挙げて制度改革や人材育成に尽力してきた。本座談会では、その歩みを振り返りつつ、県私幼が組織として培ってきた伝統や次世代に伝えたい思いを語り合った。

〔日 時〕 令和2年8月20日 13時30分～14時30分

〔場 所〕 静岡県私学会館2階

〔出 席〕 ◎出席 宮下ちづ子 静岡県私立幼稚園振興協会元理事長 学校法人豊田学園理事長
相田 芳久 静岡県私立幼稚園振興協会前理事長 学校法人相愛学園理事長
千葉 一道 静岡県私立幼稚園振興協会現理事長 学校法人清水花園学園理事長・八坂幼稚園園長
◎司会 足立 武裕 振興協会創立50周年記念事業特別委員会 記念誌部会長

先輩方からの声かけ

足 立 本日はお集まりいただき、ありがとうございます。今日は50年を振り返り、ざっくばらんに語っていただきたいと思います。

宮 下 県私幼の仕事に関わって50年以上になります。長い時間、様々な仕事をやらせてもらいましたが、主に研修事業を担当しました。県私幼は昭和45年（1970）11月の発足です。その頃は個人立、宗教法人立、学校法人立と3つの形態がありました。公



立には公的資金の支えがありましたが、私立は基本的に自己責任。そのような中、先輩方が私立幼稚園を幼児教育機関としてきちんと認めて欲しいと、毎日のように県庁や市役所に通って陳情され、私立幼稚園の地位の向上を求めた50年の思いを大事にしたいと思っています。

自分は理事長職を4期8年やらせていただき、協会30周年記念誌を発行した立場にありました。30周年誌を読み返すと、副理事長や常務理事の皆さんに支えてもらい、一つの方向に向かって仕事をする仲間が大勢いたということを改めて感じました。すぐに成果に結びつかなくても10年20年後になって、あのとき決断してよかったということがあり、私にとっては宝物のような時間でした。

相 田 私は大学を卒業してからすぐに自分の園に入り、40年を過ぎました。県私幼とは



35年を超えるお付き合いになります。歴代理事長の松永雄道先生、大貫英一先生、宮下ちづ子先生に、ずっとかわいがっていただき、勉強の機会も与えていただいて、自分の園の経営に役立っていることもたくさんあります。ぜひ恩返しをしたいと思い、理事長職を受けさせていただきました。

千葉 私が県私幼に迎えていただいたのは父が亡くなり園を代表する立場となった30歳のとき、35年程前になります。何も知らない世界でしたが、私立幼稚園のお仲間はみなさん優しくて思いやりがあって、地区の活動でもつねに支えていただきました。私もお返しをしなければと思っていましたので、今、理事長という立場で一生懸命やらせてもらっています。普段も県私幼の運営のことで頭がいっぱいです。



幼児教育の現場に入ったのは25歳で、当時の理事長は松永雄道先生でした。清水の宿泊研修では当時、男性は私と雄道先生だけだったので、宿泊先では必ず同部屋になりました。理事長と一緒に部屋というのは息が詰まる思いで（苦笑）、どう対応し

たらいいのかわからなかったのですが、先生から「千葉くん、若いんだから外で遊んでおいで。僕が部屋にいるから」と優しく声を掛けてもらいました。そのことが今でも忘れられず、若い人には極力優しい言葉掛けをするように心がけています。

相田 お世話になった先生方を思い出すと、自分が今、その年齢になって、どんなふうに見られているのかなぁと思いますね。昔は30歳前後で委員会などに呼ばれていくと、周りの60～70代の先生方が怖くてビクビクしていました。

千葉 研修の懇親会なんかでも怖かったですよね。

足立 私は今でも怖いですが（笑）、先輩の先生方から声を掛けていただくのは伝統なんです。私も継承しなければと思います。

充実した研修事業

足立 宮下先生が力を入れてこられた研修事業について伺います。静岡県が研修県だということを、他の県に行くとよく聞きます。静岡県私幼の研修が充実している理由は何でしょうか？

相田 研修は他県がうらやむくらい充実していると思います。海外研修を実施している県は他にはありません。先輩からずっと引き継いでこられて今に生きている。宮下先生が責任者として始められ、その下で勉強できて本当にありがたかったです。

先生は理事長に就任され、思い切って組織を若返りさせました。私が入ったときはものすごい先輩ばかりで恐れ多くて話ができませんでした。そういう方々と私たちとの間に宮下先生が入って下さって、これからの時代は若い人が頑張らなきゃいかん

ということで、いろいろなところへ連れて行ってくださった。組織に年齢制限を設けて次の世代にバトンタッチしやすいようにしてくださったのも先生です。その時期から協会のメンバーも替わり、組織の雰囲気が少しずつ変化していったような気がします。

宮 下 組織は、若い後継者を育てなければ栄えていけません。以前からよく「宮下先生は昔から若い人が好きねえ」と言われますが、夢を持つ若い人は魅力的です。無鉄砲、やり過ぎだということがあっても、組織の仲間になり、みんなの意見を聞くうちに自分の考えが正しいとか出過ぎている云々を、無意識の中で学ぶ場が県私幼ではないかと思うのです。

とにかく若い人を育てるには研修が一番大事。理屈ではなく自分の目で見て肌で感じる現場の研修が大事です。県私幼の海外研修に参加した人は、今、みんな県私幼のリーダーとして活躍してくれています。



相 田 海外研修は素晴らしい経験でした。向こうの先生との出会いや人間性に触れたことが今でも財産です。アンパンマンの紙芝居を自分で英訳して読み聞かせてあげたら、子どもたちがすごく喜んだ。ちゃんと通じるんですね。たった2週間でしたが、別れるときは本当に辛かったです。9.11^{*}のときに海外研修は一時中断してしまったのですが、自分が理事長の時に復活できてよ

かったです。

※ 2001.9.11 アメリカ同時多発テロ事件

宮 下 各都道府県で県外視察というのがあっても、観光を兼ねてどこか一カ園か二カ園見学して帰ってくるというのがほとんどです。しかし県私幼の海外研修はそうではなく、2週間、言葉が通じない国に放り込まれ、その幼稚園で実習します。いろいろ大変なこともあります。面白いことに子どもとは意思疎通ができる…そんな経験をすれば、子どもを見る目も変わるでしょう。

千 葉



研修は私立幼稚園の鏡であると言いますね。たとえば園の教職員には、休日なるべく外へ遊びに行きなさいと勧めます。地方に行ったらその地方の美味しいものを食すること。研修旅行で食事を自由にすると、チェーン店のピザやラーメンやコンビニで買い食いする職員もいますが、そうではなく、その土地の郷土料理を体験することが食育の勉強になる。見ること聞くこと触ること食べることすべてが研修になるんです。

相 田 経験値の高い人たちが集まることで協会の組織力も高まりますね。

宮 下 昔の研修は泊まりがけが多くて、研修委員は昼間の研修が終わると夜集まって、自分がもっている悩みや夢を語りそれがすごく楽しかったと未だに話します。

千 葉 屋間の講義よりも、その後のほうがいい意見が出てくるものです（笑）。

相 田 研修はとにかく参加しなさい、声が掛かるときはいいときなんだから、どんなことがあっても断るなと言われましたね。

足 立 私の父も昔の研修の話をするとき楽しそうでした。酒を呑んだという話ばかりでしたが（笑）、父から何も言わずに行けと言われたとき、すんなり入れました。「お父さんを知っているよ」と言われて気負わずに済みましたし、そういう雰囲気を作っていたことを、今日のお話で分かってよかったです。



千 葉 そういう家族的なつきあいができるとい
うのが私学の良さですね。

宮 下 子どもを育てるといのは、自分も育た
なければできないことです。そのためにも
研修は大事です。自分を高めなければ人の
前には立てません。人として自分がどれだ
け成長しているか、成長しようと努力して
いるかが研修ではとても重要。やろうとす
る気持ちを持てば子どもにも伝わるし、子
どもの「なぜ？」に先生も一緒に「なぜ？」
と思える、そのためにも私たちは研修を大
事にしているのです。

足 立 私も昨年スウェーデンに行かせてもらっ
たのですが、すごく勉強になりました。自

園の負担はほとんどなしで長期間派遣して
もらえる。最初 3 週間と聞いて躊躇したん
ですが、行ってみれば短くて、もっと現地
にいたいと思いました。研修に重きを置き
ている県私幼の文化というのは本当にあり
がたく、この文化は大事に残していきたい
と思います。

相 田 この協会の大きな事業といえば全国から
教員が集まる大規模な研究大会です。私も
何回か大会運営に関わらせていただき、い
ろんな経験をさせてもらいました。大変だ
けど楽しかったです。



千 葉 みんなで力を合わせて一つの事業に取り
組むというのは大事です。大人としての達
成感がある。全国大会は来静する 2000 人
以上の私立幼稚園関係者をしっかり誘導し
なければなりません。終わった後はやって
よかったと安堵感があります。

スクールバス問題に向けて

千 葉 今、気がかりなのはスクールバスの問題
です。少子化で子どもが減る一方で、認定
こども園など多様な施設が出来て、地域で
はさらに混沌とした状況になってきました。
昭和 58 年の定時総会のときに皆さん
に同意をいただき、スクールバスの送迎は
園の半径 500 メートルという範囲を作り、
それ以上の距離はバスの乗り入れをしないと
決めましたが、この時代、なんとなく子
どもたちの取り合いのような形になってき

ています。

私立幼稚園はそれぞれの園に個性があり、建学精神に乗っ取った運営をしています。自園に自信を持ち、子どもの取り扱いにならないようにして欲しいというのが私の願いです。

宮 下 昭和 57 年に林先生を中心に幼児減少対策特別委員会が動き出しました。ちょうど園児が減りだした頃でした。幼稚園はビジネスではなく幼児教育の場であることを基本としながら、本来は歩いて通園するのが原則ですが、車の送迎が必要な地域もあるだろうということで、委員会でスクールバスの運営方法を話し合いました。

当時、バスを 30 分から小 1 時間走らせたり、幼稚園から家庭まで宅配便のように往復するところもありました。委員会から提案されたことについて「それは困る」「いやそんなことは言っていられない」と、共通理解を得るまで大変でしたが、委員が手分けして各地区を周り、説明会を行い、皆さんから承諾をもらいました。

世代交替すると、なぜそんな制約があるんだと言われます。そのたびに、これは他の幼稚園を守るだけでなく自分の幼稚園を律する意味で、幼児教育を担う私学人として自分の幼稚園を律する意味でも、大事なことから理解してもらいました。地区長が責任を持って捺印したことですから、地区としての約束を忘れないで欲しいと思います。

千 葉 相田先生は平成 21 年にスクールバスの運行に関して通達を出してくださったんですよね。それから 10 年経ってもこの話は収まらず、より混沌としてきました。あれは絶対止めてはいけない、もう一度皆さんにお触れを出して欲しいとの声もありましたので、先日、再度、通達させていただき

ました。

宮 下 毎年の園児募集で願書配布するときにこの話をしますが、全然知らない地区もあります。静岡地区では毎年言い続けています。県の組織もそうですが、理事と地区長と執行部とが同じ思いでなければ、やるべきことができません。

これからは、認定こども園のように施設の機能が多様化すると、ニーズも変わってくるでしょう。同じ地区でも静岡と焼津では園数が違うし、持っている問題も違う。違いがあってもまとめる要として、みんなが協力をする県私幼という組織体制が必要で、組織が骨太になることでみんなもやっていけるわけです。組織を骨太にするのは会員であり、会員を支えるのが県私幼。県私幼は県私幼、僕らは僕らという考えでは難しいと思います。

千 葉 静岡はやはり東西に長いので、まとめていくのは難しいけど、一枚岩にならない。自分の園が生き残るには、協会や地区がしっかりしないと生き残れないということを確認していただきたいですね。

県私幼は大きな家族

宮 下 今日はいろいろな思い出話が出ましたが、当たり前というものは何一つないと思います。先輩がやってくれたことが、そのまま踏襲され、“当たり前” 扱いになっているだけで、なぜこれをやるのか、もっといいものにするにはどうしたらいいのか、ということを考えるのがこれからの人達の仕事です。園の形は変わっても私立幼稚園という柱は変わらないのですから、子どもをどういうふうに育てたらいいのか、最終的に子どものために何をすべきか、探し求めて考え続けてほしいと思います。

県私幼は大きな家族のようなものです。

誰が何の役に就こうが、前を向いて組織を盛り上げてほしい。静岡の人は優しいと言われますが、優しさと温かさを持って運営していけばこの協会は60年70年100年と続くと思っています。

最後に、この私学会館を新しくしたとき、県私幼で4階フロアを取得しました。古い建物の頃は間借りしていましたが、今はものすごく恵まれています。尽力された方々に改めてお礼を申し上げたいと思います。

相 田 私が実質的に細かな仕事をさせていただくようになったのは40歳過ぎてからで、20年ちょっとの期間ですが、その間、県私幼は同じ方向を向いて一生懸命頑張らなければという思いが強い時代でした。幼児教育振興法や新制度への対応、そして無償化という大きな目標があったので、それに向かって皆さん一致団結した時代でした。

目的がある程度達成された今、これからの10年はとても大事です。研修のニーズ

も多様化し、皆さんの気持ちがバラバラになりがちなので、ここでもう一度団結しなければ、と思います。いろいろな情報を共有しながら、前を向いて一方向に向いて団結する雰囲気作りを、私も応援させてもらいたいと思います。

千 葉 50年の間、ご尽力いただいた役員や執行部の皆さんに改めて感謝申し上げます。今まで努力していただいたものをより一層高めて今後の協会運営に当たっていきます。

私立幼稚園の皆さんは自分のことだけでなく、他の園のことも気に掛けていただける。私学人というのは仲間意識が強いのです。それを大事に、若い人の力を活かしてほしい。縁あって50年のときに理事長を仰せつかりましたが、次の50年が無事に迎えられるよう、積み重ねていってほしいというのが私の願いです。

足 立 今日はありがとうございました。



副理事長等経験者による特別寄稿 「県私幼 50 周年を迎えて」

学校法人ルンビニ幼稚園理事長・ルンビニ幼稚園園長 林 茂樹

静岡県私立幼稚園振興協会（静私幼）が設立されて 50 周年、感慨深いものがあります。私立幼稚園の全国組織は、日本私立幼稚園連合会（日私幼）のほか、学校法人立の幼稚園で組織する全国学校法人立私立幼稚園連合会（全法幼）と個人立・宗教法人立等の幼稚園で組織する全国私立幼稚園連盟（全私幼）がありましたが、静私幼は、全ての園が加盟できる日私幼の傘下ということで合意をして発足したと聞いております。

初代理事長に就任した父・林輝彦を支えてくださった相原よね、今城千鶴子、今泉勇、今村甲子夫、山田顯達、浅場慶夫、林叔子、菅沼義子、宮下豊子、北條愛子、本間樂子といった志のある先生方のお顔が懐かしく目に浮かんでまいります。

発足して 5 年、昭和 51 年の松永雄道 2 代目理事長の下での総会で、静私幼が日私幼の傘下を離れるという動議が出され、その動議は否決されたものの、不協和音が生じてしまいました。しかし、各委員会の活動は活発で、私も、山田侑孝、朝元欣笑、寺田惇、加藤鉦夫等々の先生方と熱く議論を交わさせていただきました。そして、園児の減少を見据えての園児減少対策特別委員会が設けられることになり、大貫英一委員長の名を受けて副委員長に就き、県内 10 地区を廻って歩き、共生を掲げ、30 人学級の推進と園バスの節度ある運行を決議するに至りました。

さて、私立幼稚園の全国組織は、昭和 59 年に全日本私立幼稚園連合会（全日私幼連）に統合され、静私幼内の不協和音は、大貫英一 3 代目理事長の下で解消されました。その後、静私幼の発展に尽力された宮下ちづ子、相田芳久、千葉一道の歴代理事長並びに役員の皆さま方に心より敬意を表します。

ところで、平成 6 年から 6 年間、副理事長を仰せつかりましたが、とりわけ思い出に残っているのが、委員長を務めさせていただいたマルチメディア研究特別委員会のことです。この委員会が主導して、協会のホームページを開設するとともに、各園にホームページの開設を促しました。各園が早々に対応してくださったことは忘れられません。

この委員会は、林のほか、今泉邦弘副委員長、藤本照雄、渡邊太郎、橋ヶ谷晃、藤原進の各委員が毎月のように集って協議しましたが、静岡県私学振興会の職員と株式会社データサービスセンターの社員がボランティアで参加してくれたことは大きなことでした。そのおかげもあって、静私幼と各園の IT 化及び会計ソフトの開発という二つの大きな事業を成し遂げることができました。

なお、この委員会は平成 15 年に閉じましたが、その後も会合を持ちつづけ、渡邊太郎先生が中心となって、会計ソフトのバージョンアップに当たって来たことを付記いたします。

幼児教育こそ教育の要です。将来を担う人材を育てることを目的とする私立幼稚園の集団としての静私幼の一層の発展を希います。

学校法人今泉学園理事長・いまいづみ幼稚園 今泉 邦弘

1. 幼稚園の学校法人化

第 2 次ベビーブーム期と云われる昭和 45 年頃から、新しい幼稚園が増えはじめ、公の幼稚園・保育園も増えてきました。その頃文部省では、幼稚園以上の私立学校は今後全て学校法人立とすることを決定しました。昭和 60 年度、父、今泉勇園長は故あって法人化に逡巡していましたが、私はやや強引に個人立から学校法人今泉学園（理事長 今泉邦弘）に転換しました。これからの時代を読む大きな決断でした。

2. 私立幼稚園振興 5 年計画特別委員会、[委員長：加藤鉦夫常務理事 / 副委員長：今泉邦弘（経営委員長）・水元正宏（振興対策委員会委員長） / 委員：足立一教、浅沼和雄、渡邊太郎、宮下ちづ子、松本克己、柿野敏和、橋ヶ谷晃、伊藤正見、相田裕司、山口洸、松下知弘、白中幸雄]

平成 5 年 9 月、静岡県私立幼稚園振興 5 年計画特別委員会が設置され、調査・研究・検討を重ね、平成 7 年 5 月に、教職員の待遇改善・私立幼稚園の社会的地位の向上・将来的に永続性のある経営基盤の確立の三方策を柱とする「第一次報告」が提案されました。しかし我が国が世界に類を見ない超少子高齢化社会に移行しつつあるという実態が明らかになり、「幼児教育のこれから」について新たに章を加えて最終提言をとりまとめることとなりました。「来たる少子化社会において、各園が小粒でもピリッと辛い幼児教育機関として、地域社会から評価され、選択される時代の来ることを期待したい」とするものでした。まとめる向う最後の日曜日、賑やかな静岡市街のホテルやレストランに三々五々とメンバー達が集結し、最後の打合せと報告書の推敲を重ねたことが懐かしい。かくして平成 9 年 5 月に「新しい幼稚園像の構築」と題する静岡県私立幼稚園振興計画がまとめられました。

3. マルチメディア研究特別委員会〔委員長：林茂樹（副理事長）／副委員長：今泉邦弘（常務理事）〕

平成6年5月より、林茂樹・宮下ちづ子・加藤鉦夫各先生が副理事長、私が常務理事という新執行部が生まれました。私は働く執行部にしようと思っていました。そこで全幼稚園にコンピューター設置という話がすでに巷間流れていましたので、①マルチメディア研究特別委員会は林先生と私が組む②加藤・宮下副理事長は前掲の5ヶ年計画の次期計画にとり組んでもらう等それぞれ3人の副理事長の快諾を得て、「働く内閣」が誕生しました。

マルチメディアは当時の私学振興会の職員と㈱データサービスセンター職員のボランティア参加はありがたく、活動・スタートの景気づけにつま恋りゾートを用意してくれた藤本先生、旧勤務先の仕事を活かして、スタートから会計ソフトのメンテナンスに至るまで当たり前に活躍してくれている渡邊太郎先生他熱心なメンバーが揃っていた楽しい活動でありました。50周年を祝うとともに、更にやる気のある先生達の集団であり続けることを祈ります。

学校法人小沢学園理事長・南八幡幼稚園園長 松本 克巳

静岡県私立幼稚園振興協会創立50周年誠におめでとうございます。私が協会の一員になりましたのは昭和52年、今から43年前になります。その当時は、全日私幼、全法幼、全私幼と全国には三団体あり、全日本私立幼稚園連合会に全国組織が統一される前でした。静岡県では先輩先生方のご努力でいち早く県協会の統一を果たし50周年を迎える礎を築られました。その活動を体現できたことは一会員としてとても誇りに感じるどころです。当時は、私学に対する補助金も少なく幼稚園経営も厳しい時代でした。全幼稚園が保育の充実、経営の健全化を目指し、ある意味団結しやすい時代でもありました。現在の協会運営に至る道程は、特に初期のころは平坦ではなかったと思います。初代設置者、理事長、園長が多く、皆さんの意見集約は大変でした。総会等の会合でも自分たちの思いをぶつけあう場面も多くみられ、歴代理事長先生、三役の方々のご努力は大変だったと思います。そんな先人の努力の上に現在の協会があることをつくづく感じます。当時は総会に参加するのがある意味楽しかったような気がします。

平成2年から20年間に渡り協会理事として携わせていただき、様々な経験をさせていただき感謝しております。特に静岡県は初期の頃より研修事業に力を入れてきました。研修委員長から理事長になられた方も多く全国でも研修立県として認められているところです。全国で有能、高名な講師の先生方をいち早く招き全国大会に出向かなくても、素晴らしい研修を受けられました。また、海外研修制度をいち早く導入しました。現在の協会を背負っている方々の中にも海外研修に参加された方が多く見受けられるのは嬉しい限りです。いろいろな国へ研修に出かけましたが、研修を受け入れてくださる国の選定にあたっては大変な苦労がありましたことが思い浮かびます。

新制度が生まれ、それぞれに違った方向性も見えてきた現在、私たちは幼稚園由来だと言うことを念頭に置き教育保育の本質、先人たちが今まで培ってきた伝統の良い所は残し、皆が幼児教育、保育と言う方向を見て、子どもたちの幸福とは何かを追及してもらいたいと思います。

時代の変化が激しく、年寄りには追い付いていけないことも多くなりましたが、より良い協会の姿を目指して、千葉理事長を先頭に思い切った改革に取り組み会員園が何を望んでいるのかを吸い上げ、時代のスピードに追い付け追い越せの勢いで進んでください。これからの協会の発展を心よりお祈りいたします。

学校法人瑞光学園理事長・河輪幼稚園園長 森 俊彦

県振興協会が、この度設立50周年を迎えることとなりました。長年に亘る先輩の先生たちの努力と協力のもと、この日を迎えることができますことを、御礼申し上げます。

当協会は、各種の事業を展開していますが、研修に関しては全国的に高い評価を受けております。研修委員の先生方をはじめ、各委員会の先生、各園の協力を得て現在の研修体系を作り上げることができました。

県独自の研修体系のもと、理事長・設置者、園長研修から経験年数別、新任研のみならず、子どものこと、教職員のこと、園経営に関することまで、多くの研修を設け実施することができました。

この研修の成果の一つは、「いのち育む」の作成です。昭和62年をはじめとし、数回の改訂版を作ることににより、実情に合った保育推進のための教本としての役割を担ってきました。この本の作成に関わった多くの先生方の努力に敬意を表します。

また、東海北陸教育研究大会をはじめ、対外的研修にも大きな評価を受けていることに、研修に係わられた先生方の献身的な協力に感謝申し上げるとともに、今後も各種研修が継続して行われ、多くの教員・関係者がより良い園を作るため、現場に新しい情報を取り入れていくことを望みます。

我々が協会と活動できることは、過去の困難に対して、一丸となって対応してきたことによるものと思います。会員の皆様の様々な意見は、とても重要です。しかしながら方向性が揺らぐことなく進んできました。

各地区においても、様々な活動が協会とともに進められてきたこと、協力を頂いたことを改めて感謝いたします。

かつて先輩の園長先生に、PTAや園の活動について、「子どもたちのため」この一言に尽きると言われたことがあります。協会は、会員のため、教職員のために、そして子どもたちのために活動してきましたし、今後ともこの姿勢は変わらないものと思います。

最後に今日までの事務局の協力に感謝し、今後も変わらぬ活動を期待します。

「若手職員が語る、これからの幼児教育について」



平成29年3月に幼稚園教育要領の改訂が行われ、幼稚園教育において育みたい資質・能力が明確化されるとともに、社会に開かれた教育課程の実現が重視されるようになった。昨年10月からは幼児教育の無償化がスタートし、多額の公的資金が幼児教育に投入されている。平成27年4月からスタートした子ども子育て支援新制度も見直しの時期となり、新たな課題も浮かび上がっている。私立幼稚園を取り巻く社会が劇的に変化している今、先を見据えた質の高い幼児教育を真剣に考える時が来ている。

今座談会は、静岡県内の私立幼稚園から集まった若手職員と、アドバイザーにお迎えした全日本私立幼稚園連合会副会長の田中雅道先生が、これからの幼児教育で大切にしたいことや理想の園づくりについて真摯に語り合った。田中先生には長年に亘り静岡県私立幼稚園振興協会主催の研修会の講師として示唆に富んだご講演をいただいております。今座談会でも若手の先生方に適時適切なアドバイスをいただいた。

【日時】 令和2年8月6日(木) 13時30分～15時

【場所】 静岡県私学会館3階中会議室

【出席】 ◎アドバイザー 全日本私立幼稚園連合会副会長 田中 雅道 氏

◎進行 静岡県私立幼稚園振興協会副理事長 宮下 友美恵

◎若手職員	認定こども園わかば	廣嶋 美里	／	認定こども園みのる	田中 亮輔
	静岡サレジオ	杉山 萌波	／	八坂	野田 千紘
	静岡精華	成宮 未結	／	静岡聖光	大石 竜士
	認定こども園龍の子	座光寺 敦士			

宮 下 教育という営みは未来というベクトルを見据えながら行われるものですが、未来というのは過去、そして今この時の積み重ねによってできるものといえます。そこでまず、各園での現在の保育の様子や、先生方が課題にされていること、チャレンジしていることなどを踏まえながら、これからも大切にしていきたいと思うことをお話いただき、田中雅道先生にコメントをお願いしようと思います。

廣 嶋 私の園では現在、教諭側からの挨拶や声かけを減らし、子どもたち自身で出来るよ

うにする教育をやり始めています。子どもたちは言われて行動することが多く、こちらから気づかせるより言った方が楽というのもあったのですが、子どもたちも徐々に理解してくれているようです。

認定こども園0～5歳一貫保育の課題

田中亮 当園では、認定こども園になったことで、0歳から5歳児まで一貫した連続した育ちをテーマに取り組んでいます。当初は乳児と幼児を別々に保育していましたが、職員同士の連携や子どもの縦割りを考える上で一貫保育のほうが、職員もやりやすくな

るようです。0～2歳児に関しては学年ではなく月齢に応じた保育を意識していますが、正直なところ、0～5歳児までの育ちの一貫性が未だ見えずに苦戦しています。

当園は自然が豊かな場所なので、飼育する動物や自然と関連させたがる傾向にあります。0歳でこれを経験したから3歳でこれ、5歳でこれというふうにカリキュラムを立てていますが、これがなんとなく機械的になってしまっています。



田中雅 子どもの主体性を重んじるために先生の声かけが減るといのはどうでしょうか。声かけは当然必要です。要は個と集団の兼ね合いで、集団のほうはどうしても強くなる。その中で個を生かそうと思うと3歳ぐらいからの積み重ねがないと難しいですね。

0～5歳を無理に一貫させる必要はないと思っています。言われているように0～1歳は月齢の発想でいいと思いますが、個の育ちと集団の育ちのバランスを考えると、満3歳ぐらいからが適している。幼児



教育を3歳から始める理由もそこにあります。乳児期の0～1歳はあくまでも1対1の延長です。

教育課程自体は、学年としてこういう育ちがあるべきという理論が必要であり、学年としてのまとまりがあるから成り立つものです。0～1歳の月齢時はあくまでも個別指導計画の積み重ねでしかない。それらを無理に接続させる必要はない、というのが私の考えです。

宮 下 満3歳以上の教育を行う幼稚園でも子育て広場のような未就園児が集まる機会もあります。0～5歳の育ちを捉えるというのは皆さんに共通する課題でもありますね。



杉 山 私の園では少人数での制作など自由な保育の中で取り組んでいます。やりたい子と興味のない子の差があり、日々苦心しています。今まで制作の時間として保育士が道具を用意し、「キラキラした蝶々を作ろう」と指導していましたが、今は蝶々を作りたいという、絵の具で描く、廃材で造るなど自由な表現にしています。道具の使い方や表現方法について事前に教えなければなりませんが、とにかくいろいろな経験をさせてあげたい。

田中雅 4歳というのは一番ややこしい時期です。物事をイメージできる能力は年少から年中にかけて獲得しますが、ほぼイメー

ジができて、イメージ通りのことができる年長レベルに近い年中さんと、題を出してもイメージ化できるスキルがなく、出来上がったものは年少レベルに近い年中さんがいて、本人もストレスを感じる。最初からこれで作っていい、あれで作っていいと言われても、年長なら選択の自由があるが、年中の段階では混乱を招く可能性があるでしょう。

『密になるから止めなさい』とは言えない

野 田 子どもたちがのびのび活動するには、先生たちの元気や明るさがとても大事だと思います。当園はおかげさまで子どもたちの笑い声よりも先生たちの笑い声のほうが大きいような園で、そういう雰囲気が子どもたちを安心させていると感じます。

コロナの影響で4～5月が休園となり、6月に再開しましたが、今まで6月に出来ているところまで追いつかない状態で、先生は早く取り戻したいが子どもたちの負担を考えると難しいと感じています。教室ではもともと机と机を向き合わせていましたが、今は全員が前を向いた状態でソーシャルディスタンスを取るようになり、今まで目の前の席の子と目が合ったりくしゃみしただけでもゲラゲラ笑っていた子どもたちが、今はお友達の背中しか見えなくて友達同士のかかわりが薄くなってしまっているように感じます。

田中雅 基本的に密を避けたら幼児教育はできないでしょう。私は自分の園を再開するとき、学年別の保護者会を行い、幼児教育の質とはどういうことか、どういう環境が必要かを伝えました。行政が言う密を避けるというのは小学校を対象にした考え方で、幼児教育ではそれができない。小学校で一人の先生が対面で授業するのとは違うのです。

〇〇ちゃんが△△ちゃんと遊びたいと

言ってきたら「密になるから止めなさい」と言えるでしょうか。先生は、そこが密にならないような提案をする努力が大切です。密になる瞬間があっても「コロナだからダメ」という言い方は教育的ではありません。

宮 下 コロナでこれからの社会はどう変わっていくのでしょうか？

田中雅 大学の授業は激変しました。Zoom（オンライン）授業が一般化すれば、日本全国ほとんどの大学が要らなくなり、その分野で一番優れた授業ができる先生が一人いれば足りる。英語教育も幼児教育も各大学に先生を配置する必要はなくなる。予備校も、各地の教室に人を集め、プリントを配って授業するよりも、プリントを作れる先生が一人、ネットで全国に授業する。就職した後も毎日会社に出勤する必要がなくなり、リモート勤務が主となる時代が目の前に来ている。そういう時代の幼児教育はどうあるべきか。一番ネットに冒されてはならない「実物に触れる時間」を、子どもたちにいつまで確保させてあげられるか、でしょう。

子育ての喜びや幸せを伝えるには

大 石 当園は、経験豊富な職員が多く、チームワークも良く、相互理解はできていると思います。ECEQ（保育の質向上を目指した公開保育）を行ったことで、マンネリ化といますか、何がいいのか互いに見えづらくなっていることに気づきました。駅の近くで自然環境がないため、あえて意図して作った自然環境の中でどのような遊びが生まれるか、制作物の指導等で子どもの主体性をいかに発揮させるかが課題です。職員も今までは最低限のスキルを持って取り組んでいましたが、それプラス、先生方が個々に持つ特徴をどう生かすか。私なら男性としての視点をどう生かすか。時代の変化に

伴い、精査しながら取り組んでいます。

田中雅 先生の実力や良さを生かすというのはとても大事です。均質化した指導は園の力を落とします。教員の採用について、私の園では、今回はどちらかといえば音楽系を採ろうとか、笑っているやつを採ろうというように、さまざまな視点を取り入れています。何を採り入れ、何を無視するか、周りから言われることを全面的に肯定するだけでなく、反発する能力も必要です。がんばってください。

座光寺 当園では親子の絆づくりを大事にし、これまでは行事をたくさん行って子どもの成長と一緒に考えてきましたが、働く親が増え、行事参加者が減り、思うようにできなくなりました。子どもも親の生活スタイルに左右され、園でしつけをしてくれと言う親もいる。幼児教育に親を巻き込んでできることを意識しなければと思っています。参観会はこれまで保護者に必ず来てもらっていましたが、今は来られる人だけでいいし、来てくれた人は、みんなのお父さんお母さんになったつもりで参加してもらっています。



田中雅 あくせく生活しながら幸せを実感していない人がそのまま大きくなって親になり、その子どもも幸せを感じることができずに

いる。親には、子どもを授かったことの喜び、幸せを伝えることが大事です。私の園では保護者に、子どもの誕生日プレゼントを手作り品でお願いしています。ランチョンマットでも何でもいい。モノを通して自分が大切に思われているということを実感させるためです。それがいやだから保護者会に来ない人もいますが（苦笑）、授かった命とともに老後を過ごせる幸せは、じじばばになればわかります。親は子どもが思うように育たないとマイナスに感じますが、じじばばは子育てに責任がないので子どものちょっとした変化もプラスに見る。人として生まれてきた最大の喜びの一つと言っていいいでしょう。

幼児期の英語教育

成 宮



私の園で大切にしていることは聴く態度や聞き取る力や自主性です。聴く力は学びの出発点であり、思いやりの原点でもあり、小学校への学びの連続性という意味でも重要です。聴く力を意識した英語の遊びも取り入れています。また子どもの体力づくりのための体操の時間も増やしています。ただ、英語遊びや体操遊びによって自由な遊び時間が減ってきているのが今の課題です。

田中亮 英語教育は僕らも考えていたのですが、今はやっていません。日本人が日本国内で、英語でコミュニケーションを取る時間はほ

とどなく、日本語でのコミュニケーション能力のほうが大事です。英語に特化した園もありますが、当園では必要ないと思っています。体操も遊びを通して学べばいいと思う。

杉 山 本園では、外国人の先生が年長クラスに時々来て自然と遊びの中に入っています。

宮 下 雅道先生が考える幼児期の学びとはどのようなものでしょうか。

田中雅 将来役に立つ学びとは何かは、昭和と令和では変わってきていると思います。昭和の時代は世の中が安定し、子どもに一定の知識や能力を身に付けさせることで、それなりに生涯を送れた時代。いろいろなものを教え込むのも無駄ではなかったでしょう。令和になり、AIが発達し、ロボットが動く時代に成人になる子どもたちにとって、与えられた問題に答えを出すだけの能力では通用しません。

グーグルの CEO と話をした友人が「なぜ日本は英語教育に力を入れるんだ？今にめがね型の自動翻訳機が出るぞ」と言われたそうです。大事なのは英語力ではなくコミュニケーション能力。日本語のコミュニケーション能力が豊かな人なら、自動翻訳機を使って 80 カ国以上の人と自由に会話ができる時代になるのです。英語の勉強も大事ですが、その時間、失うものも大きい。自由な遊びの時間がない子どもは、成人してから役に立たなくなるというのが世界の共通認識です。それでは国家が成り立たなくなるので、幼児教育を無償にしたのです。何の能力を付けさせるべきか、よく考えてみてください。

子どもたちに必要な能力とは

野 田 最近気になるのは、言葉を発しない子や表情を変えない子が増えているというこ

と。自分から「これをやりたい」と自己主張する子が少ない傾向にあると思います。

成 宮 私も、挨拶ができない子が増えているのが気になります。うちでは園長が門の前に立って声かけをしています。コロナで門の前で消毒や検温をしてもらっていますが、同じように挨拶を積み重ねることで、何も言わなくても挨拶が身につくようになればと思っています。

宮 下 これからの時代、子どもたちにはどのような力が必要だと思われますか？

廣 嶋



言われてやるのではなく、こうなったらこうすればいいと自分で考えて行動できる力を育てていきたい。子どもの頃は全部が全部自分で考えるのは無理でも、同じような経験をしたら、前の経験と結びつけて自分で考える力を持たせたいと思います。

成 宮 私も考える力は大切にしたいと思います。私たち自身、分からないことがあるとすぐに携帯やスマホで調べてしまいますが、便利な時代になったとしても子どもたちに考える力をどう持たせるか。親も子どもが考える前に先にやってしまう、与えてしまうことが多く見られるので、大人はあせらず、子どもの考える力をじっくり育てることが大事だなと思います。

宮 下 子どもたちが集まって活動をする中で、それぞれの思いが違うとき、折り合いを付ける力というのも大事でしょうね。

野 田



子ども同士で喧嘩が起きたとき、両方の話を聞いてあげるのはもちろん大事ですが、先生に言われたからあやまって仲直りをしたというのではなく、喧嘩になる前に何があったのか、一方的だったのかそうではなかったのか、お互いの話を聞いてあげて、助言することが先生の役目だと思います。ごめんねと言われたら「いいよ」と返す言葉のやりとりではなく、心で感じたことを素直な言葉にする力が大事だと思います。

杉 山 コミュニケーション能力はとても大事だと思います。ネットの誹謗中傷が問題になっていますが、顔が見えないから、これを言ったら相手がどう思うかを考える力が必要だ



と思います。そのためにはさまざまな人と関わる機会を作ってあげること。子どもたちが興味関心を持って、自分なりに表現方法を伸ばすことも大切だと思います。

田中雅 コミュニケーション能力は大事ですが、なくても生きていける道はないだろうかと考えます。芸術家の人は、それほどコミュニケーション能力は高くないだろうと思いますが、モノを考える思考言語が高いでしょう。

自分の本当に親しい人と何の言葉で交わすか、たとえば夢を見たとき使うのは基本的に思考言語です。そして外部の人と意思の疎通を交わすときにはコミュニケーション言語が必要になる。ただ、これからの時代はネットの中でコミュニケーションができれば、生きていく道は開けるでしょう。私が付き合った子どもに、ダンゴムシのシマの違いや形の違いを発見して名前を付けるという能力を持った子がいました。ダンゴムシの足が6本でこういう形をしているという一般的な知識は携帯で調べれば分かるかもしれないが、自分でちょっとした違いを見つける能力は、社会の中でのちょっとした変化を読み取れる、これから必要な能力だろうと思います。このことは、OECD（経済開発協力機構）でも、幼児教育でとくに特化して注目する能力だと述べています。

学歴ではない能力のほとんどが幼児期の豊かな生活体験にあるといわれます。4歳の時、いろいろなものを教え込まれたドリル型の子と、遊び場が豊かだった子の違いを、世界40カ国で検証中ですが、先進国では幼児期に多くを教え込まれた子のほうが学力は低く、25歳になった時点で年収も低いそうです。先生方には、想像以上に幼児期の体験が大きな要素になっていることを、もう一度自覚してほしいと思います。

時代の変化の中で

宮 下 ICT が急速に進んでいく中で、これからの幼児教育で変えていくべきことは何かあるでしょうか。本振興協会主催の海外研修に参加された先生方もいらっしゃいますが、いかがでしょう。

田中亮 4～5年前にフィンランドに研修に行きました。2人に1つiPadが支給されていて、数や言語を遊びながら学んでいました。今、我々の園でもICT化を進めており、単純に、先生方が手書きしていた報告書作りや登校管理に活用しているだけですが、フィンランドのように子どもたちが主体的に何をしたいかを支えるという保育の考え方がしっかりしていれば採り入れてもいいかなと。

大 石



スウェーデンではiPadを小グループで活用していました。当園の桜の木にキノコが生えてしまった時、図鑑で調べてもなかなか見つけれないことがありましたが、子どもたちはネットで早く正確に調べることができるということを知っていました。一人が独占するのではなく、小グループで何のために使うのか目的を間違えなければ有効だと。子どもたちの様子を動画にして保護者に見せて安心していただくこともできます。使い方さえ間違えなければいいと

個人的には思います。

野 田 ICTを採り入れた（北海道の）幼稚園では勤務内容・子どもの出欠・連絡すべてがICT化されていました。もはや手書きの手紙は古いのかもしれませんが、個人的には先生の気持ちを伝えたいという時は手書きを大事にしたいと思っています。幼稚園という雰囲気や先生の思いを伝える部分ではアナログであってもいいのかなと。

座光寺 当園では小学校の先生に来ていただき、外部評価していただいています。幼児期の子どもの様子を知ってもらうためにも有効だと思います。

大 石 幼児教育の無償化に伴い、園の良さを積極的に発信することは必要です。小学生にボランティアで和太鼓を指導していたところ、地域の方々から園でも和太鼓をしてもらえないかという依頼があり、園児たちが町内のお祭りで披露することになりました。積極的な発信が、さらに地域に開かれた園づくりに繋がっていくのではないのでしょうか。

私の夢、理想の園づくり

宮 下 私立幼稚園の教育に携わっている者として、これからの夢や理想の園づくりについて聞かせてください。

廣 嶋 理想としては、先生や保護者の主導ばかりでなく、子どもから発信するものを採り入れたいと思っています。子どもたちがやりたいと思うことを実行したいですね。

杉 山 私も、こちらから提案するばかりではなく、子どもたちが興味を持っていることに寄り添っていきたい。そうすれば集中力も違うと思います。

田中亮 我々職員は、何をやるかが明確になっていることで安心してしまふ。決まったりおりに制作やお絵かきをさせるのは楽だからです。そうではなく、先生が「今日は一日何もしない」という日を作り、子どもたちがどう動くか。それを我々がどう見守るか、ぜひ挑戦してみたいですね。

野 田 AI を使いこなせる人材の育成や、豊富な知識、発想力や想像力を持つことが重視される時代になるだろうと思いますが、一方で根本的に人間らしさを持つことを大事に、体を使って五感を使ってたくさんの遊びを育んでいく環境を、先生方と作っていききたいと思います。

成 宮 今日のお話で、子ども主体の保育が本当に大事だと実感しました。詰め込みすぎない保育、保護者との信頼関係も大事です。私たちと保護者とは見方が異なる面もありますが、子どもの育ちを支えるという意味ではつながりや信頼関係がとても大事になります。

大 石 大きな目標としては社会全体で子どもたちを温かく見守る環境が出来るといいなと思います。スウェーデンでは園外で子どもが興味を持った仕事として工事現場の人が作業について教えていました。社会全体で子どもを見守り、子どもの育ちをより良くしていこうというのが伝わってきました。自分としては、身近な幼児教育の素晴らしさ、子どもの育ちの尊さを地域社会へ発信していくとともに、その過程を子どもたちと振り返りながら、社会との関わりについて感じてもらえたらと思います。

座光寺 私の夢は、今いる子どもたちが親になったとき、自分の子どもをこの園に入れたいと思ってもらえることです。幼児教育の仕

事は待遇面などでいろいろありますが、本当に素晴らしい仕事です。

宮 下 最後に雅道先生からメッセージをお願いします。

田中雅 変化しなければ、とあせるより、何を採り入れたらいいかを考えてみましょう。変えようと思うと、これまでを否定しなければなりません。少なくとも保護者は今の園を選んで通わせているのですから、混乱させてしまいます。今やっていることプラス、何を採り入れていくかを考えて欲しい。

今、私立幼稚園が頑張りがれるかどうかは22世紀の日本が今の力を持ち続けられるかの境目になると思います。未来の歴史書に「2000年前後、日本は栄えた時代があった」と過去形で語られないようにするには、他の人まかせではいけません。国まかせ、人まかせでは国力は弱まります。国家がどうあろうとそれぞれが自分の力で生きていく、そういう日本人が今までの日本を支えてきたし、これからもそうです。ぜひ末永く頑張ってください。

宮 下 今日は若手の先生方から真摯なご意見を出していただき本当に嬉しく思います。雅道先生からはいろいろな角度でご助言をいただき、多くのことを学ばせていただきました。これからも、幼児教育に携わる者として、子どもたちの幸せと教職員の幸せ、そして保護者の幸せを考えながら、使命感を持って頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。



協会加盟園の紹介（234 園）



各数値は、令和2年5月1日現在のものです。
園児数は1号及び2号認定児の在園児数で3号認定児は含んでいません。

東 部

